



# 2017 私の劇評

「演劇・市民劇場と出逢えた喜びを忘れず」

今年も6本観ることができた。6本を必ず観るためにラインナップが確定した時点で観劇日を固定し、それを軸に計画を立てる。社会的な活動にも関わっているが、観劇日を含め、市民劇場の集まりを優先的に考えている。演劇は政治・社会生活と無縁のところにあるものではなく、私の中では有機的に結びつき、相乗効果を生み出しているからである。『見よ、飛行機の高く飛べるを』『みすてられた島』『蟹工船』などはその時代の限界と同時に、人権、憲法、搾取などの政治課題により取り組む姿勢に共感を覚える。それは今を生きる人々への鋭い問いかけのようにも思える。「傍観者になっていませんか」と。なぜなら「人間もまた社会的な存在だから」。それが演劇の持っている普遍性ではないのだろうか、と私は思っている。そして常に問いかけている。「市民劇場の一会員としてそ

の責任を果たしているのだろうか」と。市民劇場という組織が存在し、機能しているからこそ演劇を観ることができる。当たり前すぎて普段は気にしないのかもしれないが。しかし冷徹な事実である。そして市民劇場は会員みんなの「共有財産」ではないかとも思っている。だから継続し発展させる責任も一人ひとりに平等にあるのではないだろうか。生まれて50数年演劇と無縁であった私が、観続けるうちに自分でも信じられないほど演劇の「とりこ」になっている。演劇には琴線に触れる何かがある。言葉ではない。会場は多くの人であふれるが舞台が始まった瞬間、私の視界から消える。舞台上に集中すればするほど自分の世界に入っていく。意識せず。舞台が終わっても、すぐに立ち上がれないこともしばしば。演劇の持っている力の深さに少しふれたような気がする。演劇と出逢えて本当に良かった。心からそう思う。そして旭川市民劇場の会員

であることを誇りに思う。生きていく限り会員であり続けたい。そして演劇を堪能したい。もちろん会員としての自覚をしっかりと。 (六〇代 男性)

## 「人色々だけんど！」

今年初めのお芝居は女性の自立、明治の時代に凛と立ち上がった女学生たちのおかげで今の私達があるのだと改めて認識しました。5月は何となく笑い最後も想像どおりの展開に満足。乱暴な運転を表現するのに、立ち並ぶ像を動かしたりと裏方の大変さを知りました。7月は日本の島で本当にあったことをモデルにして憲法を作った人々、一番印象に残ったのは、お金がないから武器はいらぬ話し合いをしよう。舞台は現代未来でなく、戦後のままでよかったのではないかとふと思いました。9月は、現在の日本のどこにでもある風景で見えてほっこり・ちょっぴりしんみり、最後はブラスパンドの演奏。俳優さん達

の歌声は素敵でしたが、楽器演奏は今ひとつと感じつつ、なぜか涙が止まらず、泣いたお芝居でした。10月はこちらも日本で実際にあった過酷な労働者達、大勢の俳優さんが出演していましたが全体に今年一番セリフが聞きずらく残念でしたが何ととっても舞台の素晴しさ荒海の様子を見ていると船酔いしそうでした。12月はシンプルな舞台で墓友なので、共同墓地かと思っていたらまったく違いあれーと？いまひとつこの舞台設定の場所がわからなかった。お芝居を見ながら、私の最後は誰に頼むべきかと考えながら見ていました。今年も色々な人間模様を見て人間の身勝手さ当てにできない国家を痛感しました。今年1年お芝居が観られて感想などを書いていられる今、日本はまだまだ平和なのだと納得している私です。

(六〇代 女性)

「けっこうバラエティに富んでいたよ」

2017年のはじめ、全作品未見のときから「今年の旭川市民劇場賞は『蟹工船』に決まりだろう!!おそろく、そうに違いない」と思っていた。順にふり返ることしできないので、例え順に感想やら、今、思うことなど書いてみる。『見よ、飛行機の高く飛べるを』は、期待が大きくて、正直、残念な感想だ。とても、ていねいなエピソードや人物像。舞台セットの確かさで、とても、いい気分だったのに。ラストのシーン、階段を上がったところ(踊り場?)で、空を指さして「飛行機がー!!」みたいをやったので、本当に興奮。それまでの3時間の上演時間を「返して」の気分にならなかってしまった。『Be My Baby』は、加藤健一ならではの演目のようで、いつものシャレたセリフや、設定の妙でもって、外国劇を楽しくみせてくれる。今回は、セットがすごくて、その「すごさ」は、言葉は

悪いが、学校演劇のような工夫がこらされ、これを「おもしろい」とするか否かが、けっこう評価がわかれるのではないかと思った。テーマは、大人の、しかもけっこう中年までいった男女のラブ・コメディともとれるが、性格や生活スタイルから全く異なる2人の、実は、いろいろな人生があつてのことのような。第一印象は大切なこともあるが、人間いざとなつてみないと、本心や人生観は、わからないものだ。何かのきっかけで、人は、心が触れ合えるものなのだ。『みすてられた島』は、胸がドキリとした。家族、隣人、村、島、国。構成するのは全て人間。その一人一人の命の重さは変わらないはず。「言葉」をもって、わかりあう。テレビの国会中継と違う、有意義な会議進行・内容・結論づけであり、議員や若者に観てほしい芝居であった。母親役の人の声がすばらしく良く聞こえ響き、物語の Comedy要素を担っていた。『秋に咲く桜のような』は、音楽劇と名

づけているように、小さなエピソード集のような。シーン毎の人々の立場での互いの関係性の会話劇。ラスト、出演者全員が楽器を演奏し、一体感をより一層盛り上げようとするが、演奏が長すぎたと思われるのは、私だけですか。『蟹工船』は、何よりも、この作品に取り組んでいること、出演者が多く必要で、セットもちよつとやそつとでは成り立たないと、容易に想像できる。一言で言うとなりに違いない。それだけの覚悟と、学習というかが、役者の演じる側にも必要と思われる。ちよつと観てみるかでは観られない。音楽が、黒澤明映画のようでいい。群像劇の船の中の暗い場面ばかりの中で、貧しいながらも、生き生きと躍動感があり。セリフにない役者(声を消している)にも目が行き、とてもいい。苦しい原作小説を少しのユーモアもまじえており、学校鑑賞に適するように工夫されている感が。本当はもっと汚れて、息苦しい内容なので、観客の中に

は、物足りなく感じた人も多くいたかもしれないが、『七人の墓友』は、観終えて、タイトルの『七人』とは誰なのかと考えたりしてしまった。『七人』にこだわらないでもよかったのではないかと、別のタイトルは!?（「墓友ものがたり」）？チラシの不気味さとは全く違う物語。家族と友情、人と人とのつながり、夫婦・兄弟・パートナーを描く。エピソードが多く、役柄の設定も幅広すぎて正直、観ているのに疲れた感じの時間もあった。シンプルな舞台。背景のサンド・アートは見事。ともかく、芝居は、最初から最後まで、観ないとだめです。最後まで観ないと語れません。こんな話だろうと思つてか、前半の一幕で帰る知人もいるが（冬は、特に交通事情もあるのは確か）、二幕目（後半）で、ガラツと違う話となつたり、ラストのラストで大展開や逆転があつたり。やはり、体調を整えて気力も養つて、観劇の日をむかえたいものです。ちなみに、私の市民劇

場賞は『みすてられた島』。

（六〇代 女性）

### 「2017年市民劇場と私（市民劇場は健康寿命伸ばすのに役立つものか）」

2017年度の期待は大きく、6作品全部観劇。期待を裏切らないものだった。ここ数年市民劇場の存在が私の中で小さくなつていった。また位置づけが少し変わったようだ。しかしここ数年は、例会を忘れる。事務所への返信を忘れる等があり、また目の病気で後部座席からはぼやけて見えない。同じ姿勢を続けると腰が痛くなつて苦痛等、歳相応の症状が現れて市民劇場もういいやと思つた。10月に12月例会の運営担当会議の案内が届く。「えーこんなに早くから」。会員を増やすために何をどうする。と言われてもねー。知っている人を対象に考えるから、全部声かけした。Aさんは「自分の観たいものだけ」、Bさんは「芝居は好きでない」と考えている。

それに知らない人に声かけるなんて…。会議の中で「私はいつも市民劇場の資料を携帯してチャンスがあれば知らない人にも声掛けしています。50人くらい声掛けしたかな」という発言があつた。

1400人を維持しているのはこうした市民劇場に情熱を持った人たちに支えられているのだと実感した。会員が減るとどうなるか目に見えているが、行動するには相応なエネルギーが必要だ。今私にできることは何か。運営担当者会議に出席することかなと思いがながら話しを聞いていた。「蟹工船」では働き方の問題について色々な意見を聞くことができた。本が書かれた昭和と現代と共通した問題もあつた。「七人の墓友」では、さらに身近な問題として話が盛り上がった。会議に出席するのはちよつと面倒なところもあるが、同じ会費を払っているなら、芝居の感想を聴いたり、しゃべつたりするのも脳を活性化するうえで良いのではないか。衰えてきている身

体に刺激を与えて健康寿命を伸ばすのに市民劇場を役立てたいと思ひ2017年度を終えた。

（七〇代 女性）

### 「市民劇場は人生の刺激」

二〇一七年度のラインナップを見直すと、自分はこう感じた。現代社会が抱える悩みを分かりやすく表現しているのではないかと。もちろん、「みすてられた島」や「秋に咲く桜のような」等喜劇ならではの解りやすさもあつたろうが、「蟹工船」のような過去の悲劇的なものでも現代の問題として存在している事を実感させられる。政治的な論評になるとこの場では相応しくないのでは（というよりも世間的に憚られるのがこのご時世）、果たして今の政府の中心にいる役人の方がこれらの作品を観て（中には観ている方もいるかもしれないが）、どう感じるのだろうかと考へたりする自分がある。特に二〇一七年度作品群の中でも、「Be My Baby」・「みすて

られた島、「秋に咲く桜のような」等の共通項として思ったのが、人と人が手を取り合い助け合っているという姿が、個人主義的になりつつある我が国では少し希薄になつた気もする。自分もその一人であると考え、今回の劇評を書くうえで反省点にもなつた（勿論これからの人生で生かさなければならぬのだが）。年を重ね涙もろくなつたのと、一生懸命に役作りや演出をされる劇団員の方々を見て自分自身もつと頑張らねばと、人生の刺激になる市民劇場の舞台でこのような素晴らしい劇を支えられる方々に、この場をお借りして感謝の意を申し上げます。また、今後の作品も期待しております。追伸 九月の田上ひろし氏率いるスタミナや&イツツ・フォーリーズの案、どうするか？最後まで観客を大事にする精神には感激した。終演後間もなくお疲れのところ、出口まで見送り嬉しかったですよ。

（四〇代 男性）

### 「時代を映す鏡としての演劇」

北の旅人

ある人との出会いによって入会し、若き日に東京で五〇本程観劇して、北海道に戻ってからは、すっかりご無沙汰になつてしまいました。二月例会のみ昼、以降五本は夜公演で観ました。私のベストワンは、五月例会の「Be My Baby」としの「ベイビー」です。昨今の映画、テレビドラマでは、時代を反映してか、暗く深刻なものが多く、ウンザリしておりました。この世相だからこそ明るく希望が持てて、笑える上質の Comedy を観たいのです。この作品は、まさに私の観たい芝居だったのです。何と言つても、プロデュース・主演の加藤健一のたまたまい、優れた演技力・包容力、そして共演者たちをまとめていくリーダーシップ……。どれをとっても、今の演劇界のなかではトップクラスだと思える役者です。他の五本も、それぞれ時代を映す鏡と

しての演劇を体験出来、バラエティーに富んだ演目でした。二〇一八年も、楽しみな演目が並んでおり、年初よりワクワクしております。（二六〇代 男性）

### 「演劇の楽しみ」

演劇は、作家、演出家、役者、舞台監督（装置・音響・照明・衣装）等多勢の人々による総合芸術だ。多くの人々によつてひとつの作品を創り出す醍醐味は、他の芸術と大きく違うところだ。そしてこの総合芸術の要になるのは、作家の仕組んだ筋書きであることは言うまでもない。この筋書きをもとに総力を結集し、知恵を絞り、味付けを工夫し、いかに美味しい料理にするかは、演出家や役者の腕に掛かっている。それぞれの分野が、手間暇をかけ、丁寧に練り上げ、一人一人が十二分に力を發揮しなければ、人の心に届く作品は生まれまいだろう。劇場という空間で観客と出会い、共有されて初めて結果が示されるという訳

だ。舞台を通し、送り手と受け手が生のコミュニケーションする楽しさを実感したい！生身の肉体が表現する美に出会いたい！そんな一瞬を求め、私は劇場へわざわざ足を運んでいる。二〇一七年満足できた舞台は「七人の墓友」だった。作家、演出家、役者の三拍子が揃い「明日への希望を灯してくれる作品」と出会うために今年も劇場へ足を運ぶ。（七〇代 女性）

### 「私の学習の場〜市民劇場」

N子

市民劇場会員歴十三年目にして初めて、全例会を味わうことができた二〇一七年。しかし、私のサークルに、仕事・介護・入院に孫の世話と幾つもの負担を背負っている彼女がいる。私は、「蟹工船」だけは観て欲しいと一〇月例会まで無理矢理引き留めていた。当日私の隣に座った彼女は、静かに観ていたのであるが、クライマックス、「ストライキ」要求を突き出す労働者と共に「こぼし」を振

り上げたのである。そして、ソーラン節を口ずさんだ。彼女の心の動きが手にとるように感ずる一瞬、熱い涙がとめどなく流れた私であった。東京芸術座の皆さんと隣の彼女に、何度も力強い拍手を送らずにはいられなかった。冬眠から目覚めさせてくれた二月例会、「女性差別撤廃条約は日本で本当に生かされていないのか」「女の子」として生まれてからずっと抱えて、いつも課題を持ち続けて来て七〇年。「見よ、飛行機の高く飛べるを」に背中押される。「みすてられた島」も、頭をタタかれる。沖繩へ、東北の被災地へと思いがつながり広がる。錆びていく頭の中、鈍くなる手足、言葉も文章も退化する自分自身に、ステージからつきつけられる課題は、私の学習の場でもある。六作品に関連した本をむさぼり読んだ二〇一七年は忘れ難い。二〇一八年の作品に今から恋いこがれながら、平和憲法を守ろう!!と声を高く歩む年に。(七〇代 女性)

### 「蟹工船」に想いを寄せて!

昭和二十八年四月八日、終戦後初の「蟹工船」東慶丸が函館を出航しアラスカ沖に向かったのが今から六十五年前のことであった。当時私が水産高校を卒業し最初に乗った船が「蟹工船」だったので今でも鮮明に記憶している。昔は海の夕コ部屋と言われた「蟹工船」は収入は高かったが過酷な労働条件を小林多喜二の作品で想像はしていた。幸いなことに私は学校から派遣されたので作業員ではなく船員として乗船したので客観的な立場で現場を観察出来たと思う。たしかに当時は借金の形に小頭が作業員を紹介し支度金を天引きしていた現場を口撃している。しかし戦後とはいえ作業内容は操業期日までに目標値を達成しなくてはならないので陸上とは大きな違いがあったし、白夜続きのアラスカ沖では気象条件により自然と労働時間が長くなることも分った。蟹漁業は戦後の長い期間、ソ連側か

らの許可がなかったたのでタラバ蟹も豊富で連日大漁が続き期日前に目標値を達成し無事帰港したことを思い出しました。その「蟹工船」を十月例会で観られることに心弾ませながら待ち続けておりましたが、現実の舞台では大海原での出来事を舞台で表現するには無理があるにしても東京芸術座の団員さんが一生懸命演じていたことに感謝しております。ただ残念なことは船長が作業中に制服で船内を巡回することはあり得ないのでその点が少しリアリティに欠けていたと思いました。市民劇場の会員になつていたお陰で、まさか八十三才にして「蟹工船」の現場と、お芝居を比較して観られる運命の巡り会いに感動し、会員を続けてくれたことを誇りに思いました。

### 「旭川公会堂」

「旭川公会堂で芝居を観る」いいですねえ。階段座席だから、前の人の頭は気にならないし、音響もいい。そして木の椅子。家具の

町旭川のわぎ。最近、座席はどこでもいい。と思います。芝居好きの私は少々役者の声が届かなくても我慢できますが、しぶしぶついてくるつれあいは、セリフが聞けないと、くそみに文句をいいます。だまって聞き流しています。本当は芝居はこれが一番大切だと思います。「墓友」は全員はつきり話してしまいましたね。それが良かった理由かも。(七〇代 女性)

### 「二〇一七年の市民劇場」

劇評なんておこがましいので、9 思ったことを勝手に書きましよう。昨年のお芝居は6本全部見れました。最初から最後まで楽しかった物、前半寝てしまったのに、ラストの1シーンがよくて忘れられない物、深く考えて想いが他へ飛んで行く物、毎年のことながらなかなか一番は決められないものです。6本のうち3本が「人の権利」という事だったのはとても面白く考えることが多かったです。「見よ」は女性の「みすてられた」

は日本人としての「蟹工船」は労働者の権利です。現在、自分に与えられた、当たり前のように思っている権利は、誰かが戦って勝ち取ってくれたものだ、改めて認識し、考えてしまいました。それは今だ与えられていない人々にとってはまさしく「垂涎的」でしょう。過去と未来の間にいる私達は、先輩達に感謝を忘れず、次の人達により良い型で伝えてゆくべき義務もあるのではないでしょうかなどと思いつつ、この3本の中では総合的に7月が芝居として良かったと思っています。最初から最後まで楽しく見れたのは5月と12月でした。「B e M y」は予想通りの流石の出来で、温かい気持ちになりました。「七人」は思いもかけず役者さんの力も本もよく、こんな作品と出会うと市民劇場の良さに、改めて惚れてしまいます。一人の平凡な主婦が、家庭を切り盛りし、まさに「置かれた場所であつた」でありました。そして人生の終わりに向かい母でも

妻でもなく、一人の人間として見て欲しいと願う、共感した女性も多いのでは...と思えました。お芝居の良さは観てる時楽しい事（笑いや感動など）そして新しい考え方に会える事、芝居の中だったり、一緒に観た人の感想だったりです（お芝居のあとお茶をするのがまた楽しい）。これからも市民劇場を大切にして、楽しみたいと思っています。（五〇代 女性）

「心のサプリメント、市民劇場」  
 今年度は、すべての例会を観ることが出来ました。いつも「いろんな時代に、いろんな人生の追体験」をさせていただいている思いですが、私なりの答えを、面白がって、「他人の人生の、のぞき見！」をしながら、機転の早さ、切り替えの巧みさ、潔よさ、などと人生教訓をたくさんいただいています。基本は大笑いして、スッキリする劇が好きな自覚はありますが、例会の中で「蟹工船」を新

しい感覚で受けとめました。理不尽な時代の、過酷な扱いの中で、正義のあり様を積み重ねながらの劇の雰囲気は辛くて、怖いもので、観ていて疲れたのですが、最後の場面の「ソーラン節」で、すべてが一変しました。湧きあがり、うねり、地鳴りの様に響き渡り、男声合唱の迫力に圧倒されました。ハッピーエンドに終わらず、大きな理不尽な熱い思い、その時私の心に放り込まれた衝撃は、今だ熱いまま残っています。ほんとに印象深い例会となりました。でもチヨッピリ不満は、大きな声で叫ぶ様な、発声で「何を言っているのか、わからない？」セリフの内容が、時々わかりにくかったのが残念でした。でも、私に不足している、何かを埋める、心のサプリメントになったことは確かな気がします。（六〇代 女性）

編集スタッフから  
 個性的で、示唆に富んだたくさんのお劇評、本当にありがたうございました。継続は力になることを信じて、興味を持っていただける編集に努めます。

50字劇評「言わせて!今日の芝居」に投稿を!

ここは、会員が「芝居を自由に語る場」です。率直な感想をお寄せください。

- 署名 “不要”です。ただし、編集の都合上、「男女」・「～歳代」だけは記入を!
- 字数 “50字”です。多くの会員の声を掲載したいからです。ご理解を!
- 締切 3月18日(日)【2018年2月例会 劇団朋友「ら・ら・ら」】